

2025年度 3つのポリシーのアセスメント結果について（2024年度実績）

（1）学部

学部におけるアドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに関して、予めアセスメントポリシーで定めた基準に照らし、学修成果についての検証をエビデンス（2024年度資料）に基づいて行いました。（入試結果や外部アセスメントテスト、GPAや単位修得状況、各種アンケート、進級・卒業判定の結果等）

入試結果やGPA、卒業率、就職率、授業アンケート結果など、設定した基準を概ね満たしており、教育の質を担保できているものと考えております。

具体的には、TOEIC試験は7年連続で、日商簿記2級は2年ぶりに目標人数を達成しました。また、卒業生を分母とした就職率は今年度も目標とする90%以上を達成しています。さらに、学生による授業評価アンケートは8年連続で目標を達成しており、質の高い教育を提供できているものと思われます。

課題としている英語プレイスメントテストの結果や外部アセスメントテストの結果（思考力や学修量、読書量）については目標に届きませんでしたが、学科別にみると一部で改善が見られました。

卒業予定の4年次生に対して行った「卒業予定者アンケート」においては、「入学してよかったです」との回答が94%と非常に高く、アンケートを始めた2018年度から同水準の数値を保っています。また、卒業後4年目の卒業生に対して行った「卒業生アンケート」においても、本学の総合的満足度は92%となっており、これらの結果からも大学に対する満足度は非常に高く、十分に質保証ができていると考えられます。

卒業生が就職した企業を対象に行った「企業アンケート」においては、本学卒業生の全体的な印象や仕事ぶり（能力）について89%の企業から優れているとの回答があるなど、大学教育の効果が社会的にも評価されていることが見て取れます。

今年度の検証結果をもとに、次年度に向けた評価項目並びに測定基準のさらなる見直しを行い、適切なPDCAサイクルの運用を通じて、継続的な改善に取り組んで参ります。

（2）大学院

大学院においても予め設定したアセスメントポリシーに基づいて検証を行ったところ、入試結果やGPA、修得単位数、授業アンケートの結果などは設定した基準を概ね満たしており、目標を達成していると考えております。

「修了予定者アンケート」では、「身についた力」の指標とする3つの力の全てで肯定的意見が89%、カリキュラムの満足度も3項目で89%と非常に高く、教育の質を保証できていると考えられます。

一方、博士課程後期課程への進学者や入学者が少ないことは長年続く大きな課題であり、同課程の定員充足率を上げつつ博士の学位取得者を増やすことが、大学院教育の充実や質の保証を担保するためには必要な要素であると考えております。今後も研究者養成コースの充実、発展に向けて、評価項目や測定基準の見直しと充実を図り、本研究科の教育・研究内容の改善に活かすことを目標に取り組んで参ります。